



研修生送別会 ~2004.12/25(土)~

謝謝了!
ありがとうございました!



会社から来日研修のチャンスを頂きまして、とても感謝しております。会長、社長及び皆さんの応援の上で無事に328日間の研修を終わらせました。研修について報告します。
日本の企業は特別な文化を持ち、企業の文化方向は社員の価値観と一致し、さらに有効的に仕事、生活に運用しています。企業にいれば、社員の頑張る精神と高効率の仕事雰囲気を感じ、良い経営道徳を持ち、信頼第一を信じ、お客様に対して責任をもちます。品質は企業の命と思い、一流の商品を生産しています。管理では人を基本として、柔軟化管理、社員の想像力と創造力が発揮できます。科学技術の改善と商品の更新でき、企業が勝つ位置にいます。

- 1. 日本の企業は礼儀正しいです。
2. 時間に対して強烈的な意識。
3. 組織関係が明確。
4. 団体精神が強い。
5. 仕事の計画性が強い、目標明確、順位を決めてやります。
6. 社員の専業技術と幹部管理レベルを重視しています。



呉強 (Wu Qiang)

こんにちは。森松から受けたお世話と信頼、森松研修ができ光栄に思いました。義信と私にとって貴重なチャンスをいただきました。みんなにご苦労をおかけしました。ここで心からの感謝の気持ちを申し上げます。
瞬間に11ヶ月が過ぎました、まことに深く感謝の意を申しあげます。たくさん迷惑もかけました。これまでは、進歩の意識がなく、物事に対する理解と考え方は浅く、相手の苦労を深刻に感じていませんでした。我々研修生にとって、仕事と生活で起きた身の回りの事は全て学習になりました。まことに社長に感謝します。教育と学習ができました。正確な理解と見方ができました。普段、上手に話せず、自分の熱意を表現できず、たくさん失礼な事がありました。理解をしていただきたいです。来年は会長と社長から義信と私に勉強するチャンスをいただきたいです。自分の反省点をまとめ、今後努力仕事します。会長と社長のおかげで、義信の発展ももっとよくなります。心からみな様に感謝します。同時に義信全体社員と家族に代わって感謝と新年の祝福を申し上げます!これからもよろしくお願ひします。



蒋能文 (Jiang Neng Wen)

「ウェブログ始めました」

社長 森 直樹



社内ではちらちらと話しておりましたが個人のウェブログを作りました。ウェブログとは、ウェブ(ネット)のログ(記録)と訳す事が出来ます。文字中心のホームページと違ってただ読めればよいのかと思ひます。こちらでは日常思ったことから普段の社内報には到底書けない(?)ことも書くかもしれません。
今回このウェブログ(ブログ)を作成するにあたり、主たる目的は普段お会いできない方たちとも、また社員の皆さんとも、この媒体を利用することにより私自身を知っていただき、またこのブログにより実際にあったときに「コミュニケーションし易くなれば」と思ったことが発端であります。まず年間3.65回の更新を目標にしており、果たしてどこまで継続できるか、またどのような問題が起るか予想するのは難しいところですが、よろしくお願ひします。
ちなみにこのアドレス、三代目とそのまま書いてありますが私が森松三代目ということ、また日本語で覚え易いアドレスでという思いがありましたので sundaime とさせていただきます。

ウェブログ名:「森と松と森」

アドレス http://sundaime.typepad.jp/

naoki@morimatsu.net

Calendar table with dates and events: 26日(土) 第四土曜休み, 24日(木) 光田昭男さん誕生日, 23日(水) 編集会議 18時~, 22日(火) 経営会議 13時30分~, 19日(土) 牧野光昌さん誕生日, 18日(金) 活性化交流大会 13時~18時30分, 15日(火) 村田恒夫さん誕生日, 14日(月) 誕生日会 12時~13時, 12日(土) 第二土曜休み, 11日(金) 建国記念の日, 5日(土) 第一土曜休み, 3日(木) グリーンプラ研究会 14時~18時30分



「元氣のでのる信念会」

吉岡孝記 (ロジスティクス2005)

2005年1月7日に恒例の「元氣のでのる信念会」をマルベリーホテルにて総勢67名(お客様48名、社員19名)開催致しました。今回は初の試みと致しまして年齢別にテーブルを分けてみました。これは年齢の近い人の方が話しやすいのではないかとこの会長よりアドバイスをいただき実行しましたわけですが、昨年より盛り上がったようにも感じるほどでした。

また、丸喜化学工業(株)佐々木部長より恒例の秋田県民謡の披露で最高潮に盛り上がりました。

昨年は災いの年といっても過言では無いほどいろいろな事件もありましたが、2005年は地元愛知では愛知万博開催、中部新空港開港とイベントも盛だくさんです。この勢いで今年も1年、皆様のご協力をいただきながら中部を盛り立てていきたいと思ひました。

出席された皆様には忙しい中、また遠方よりご参加いただきありがとうございました。



編集後記

「編集委員」

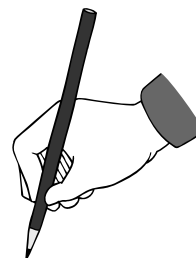
寒さの厳しい日が続きますが、皆さんは風邪など引かれてはいないでしょうか?

今年から数年ぶりに波紋の編集委員になりました。昔は、原稿が手書きだったので、癖のある字を書かれる人には苦労した覚えがあります。その点では、今はパソコンを使うので便利になりました。便利になった分、漢字が思い出せなくなつた自分があります。

これからは便利な世の中になると思ひますが、便利さに負けない事が肝要だと思ひます。

松井宣和

(直列六気筒)



『キレイ・清潔社会の落とし穴』

森 信之



寄生虫博士として有名で、自分のお腹にサナダムシを飼っている藤田教授は皆さんご存知ですか？「笑うカイチュウ」「空とぶ寄生虫」「清潔はジョウキだ」「キタナイはキレイキレイはキタナイ」の著書があります。

私の周りにアトピーで苦しんでいる人が多い、私の家族の中にも一人いますし、甥や姪にもいます。会社の中には二名、取引先のO社のTさん、S社のTさん、友達の娘さんなど…。実に多くの人が悩んでいます。真剣に困った事です。

寄生虫博士が言うには「日本でアトピーやぜん息が増えてきたり、キレイやすくどうしようもない精神的に弱い子が出来てくるし、働けない男の子や、引きこもりの子供たちも増えていますが、インドネシアには引きこもりの子供なんていません。子育てでノイローゼになっているお母さん方もいません。キレイ・清潔・抗菌が逆に、日本人の健康を害し、汚染している」と警告を發しています。

見た目が汚いのは、本当にキタナイのとは違うという事を教えないといけない。逆に、キレイな野菜は虫も寄らないほど防腐剤だらけになっていて、本当はキタナイ、農薬が入っていて、虫が寄り付かない野菜なのです。キレイだと思っているのが本当はキタナイのです。ものすごく体に悪いものがいっぱい入っているものを「キレイキレイ」と言っておくっている。子供たちの健康が心配な世の中ですね。

冬季休暇読書感想文

「頭がいい人、悪い人の話し方」 樋口裕一 著・PHP新書

成瀬勝英 (ロジスティクス2005)

バカに見える話し方の事例として、道徳的説教ばかりする。他人の権威を笠に着る。根拠をいわずに決めつける。ケチばかりつける。抽象的な難しい言葉を使う。等々…。あ～こんな人いるよなー。とか自分にも身に覚えのあるような会話が実は相手にとって、すごくおバカさんにとれる会話であることを本書は教えています。しかし読んでいく過程で自分なりに感じた事は、著者の人間性はいかかなのか？という疑問です。人の会話を分析し、その人間の性格までも手に取るように判断できるような経験なり知識が、彼自身に備わっているのか？ 筆者は早稲田大学文学部を卒業後、物書きに専らしてきた経歴をもちます。ゆえに彼に言わせれば文章力がある者は会話の表現力も文章力に匹敵する能力があるとの事。

うーん、そうなのだろうか？ 少なくとも文章においては表現する内容を見直し、考えて活字にする時間はあるが、言葉の持つ難しさは、立場、時、場所により変化し、瞬時に判断され相手に伝達する点で似て非なるものである気がするのですが、本書の最後のほうには筆者自身が人前になるのが苦手な会話でへただと書かれていますが、何を言わんかそれこそ矛盾では無いのでしょうか。人を見る判断材料としては本書の書かれた内容は詳細部分に乏しくバカと言われる基準が曖昧な点も(主観的)本書の内容が軽く感じる要因とも言えます。内容においてたしかに筆者と同じ視点で感じる部分もあり、自信の反省点や会話のまとめ方等、勉強になる部分もありました。しかし、このような否定的な見方で捕らえる本の読み方もありだと思えます。何故なら、本書に書かれた内容は否定・肯定を繰り返す頭の中で対話ができる、考えさせられる本だと思えるからです。

「マツダはなぜ、よみがえったのか!」 宮本喜一 著・日経BP社

伊藤雅典 (直列六気筒)

私のマツダのイメージと言えば、ロータリーエンジン、ルマン優勝、RX-7(サバンナ)。しかしロータリーエンジンと言えば、燃費は悪く、エンジンの耐久性がない。ルマン優勝は新参者が優勝してしまい、海外のルマンファンより響きをかっした。RX-7と言えばかっこよくて、よく走るが、とても高く手が届かない。かといって中古で買えば、あまり程度の良いものは、望めない。市販車を購入するときは、値引き幅が大きいといった感じです。残念ながら一度もマツダの車を所有したことはありません。中には私から見ての、魅力ある車もありましたが、ロータリーエンジン車以外はどのメーカーでもありがちな車ばかりといった理由です。第1章のRX-8開発物語は車好きの私としては、大変興味深く、楽しみながら読ませて頂きました。

RX-8が発売された時どうしてドアが観音開きになっているかが、よくわかりました。ただ、デザイナーの気まぐれではなく、4ドア、4シーターのスポーツカーを作らなければならないというところから出てきた発想とのこと。センターピラーをつければ、強度等は確保できるが、ホイールベースが長くなりスポーツカーとしての走りの追求できなくなってしまう。このような無理難題も、会社再生時にロータリーエンジンを失いたくないと言う、技術者の執念によって実現できたことだと思えます。また、開発の節目、節目に改良を施した車にフォードから来た役員に試乗してもらっていたというところは、しっかり報・連・相がされていると思いました。

今回、RX-8の開発にあたって、携わった技術者の執念によって完成されたということが、大きいと思えますが、過去に何度もロータリーエンジンはだめだと言われながらも改良を繰り返し現在まで生かされてきた技術者の執念のおかげだと思えます。なぜならば軽量、コンパクトなロータリーエンジンがあったからこそ、実現できたと私は思ったからです。

『一期一会』

顧問 錦見日出夫



昔から、お茶の世界を始めとして人をもてなす心得で使われる言葉に二期一会があります。片や京都の花街祇園の御茶屋では、「見さんお断り」と言われお金を積んでもなかなか舞妓さんや芸妓さんとは接する事が叶わない。その道の巨那衆の同伴でないと連れて行ってもらえないとよく耳にする。私のような無粋で縁も因もない人間には何となく閉鎖的で異なった世界観を感じてしまいます。

元来、祇園の御茶屋は江戸時代初期には八坂神社の門前町として参詣者に白湯や煎茶を供する水茶屋が始まりと聞いている。なのに何でこうも格式が高くなったのか？

ところが、最近テレビの番組で何故一見さんを断るのかという話を聞いた。その理由たるはお客を最大にもてなすには、お客の好みや趣味、興味や関心ごと等を知った上で部屋の掛け軸つに於いても、又生け花や踊りや唄に至るまでお客を知った上で、歓待をする、従って一見様ではお客の情報がために十分なもてなしが出来かねるのでお断りをしていっていると説明があった。

言われてみて初めてその思いの深さに納得もし、感心もした次第です。

然るに、我々のお得意先は殆どが常連でお得意様の競合状況・品質要求、梱包形式や配送日納品時刻等々が十分解っている所ばかりであり、各々の得意先の満足度を高める要素は知り尽くしているところ。一見様でないお得意様に商品を介して最大のおもてなしをするには何を実践・実行する事が大事かを、今一度見直してみましよう。

『サンティアゴ』

牧野光昌 (7UP)



いよいよ今月の17日に中部国際空港「セントレア」が開港します。

セントレアとは、日本の中心(Central Japan)中部にある空港(Airport)という意味だそうです。24時間離着陸できる3,500mの滑走路を持つ本格的な海上空港だそうです。滑走路が長いという事は燃料をたくさん積んだ飛行機が飛び立てるという事です。

これで東海岸や南欧などへの直行便が中部から飛ぶ事も可能になるわけです。ただ先日の滑空テストでは強風の為、一時中断ということもあり、その辺は海上空港の欠点なのかもしれません。従来の名古屋空港ではなかった点としては、三重県地区からの海上アクセスが出来ること。津港からの高速船や鳥羽港からのフェリーにて、三重からは単時間のアクセスが可能となります。ただし岐阜県からは少し遠くなってしまうが…。

中身を見てみると国際線出発ロビーの免税店には115の名ブランド店がそろう、ターミナルビルの4階には、国内空港では初めてとなる展望風呂、隣接するホテルでは、客室を時間単位で利用できるシステムもあると聞きます。ちょっと休みという時に3時間から利用できる、延長も1時間単位で可能だそうです。どこかで聞いたことあるようなシステムですが、また、空港を利用されない人も世界の雑貨を販売するゾーンやグルメゾーン、イベントゾーンなど観光スポットとしても注目されています。

さて、海の上ということで地震・津波を心配されるかと思いますが、そのあたりも想定される最高レベルよりもさらに高いレベルでの安全が確保されているそうです。来月には国際博が開催され、国際都市として地元が注目されています。そういう国際的な感覚を、身を持って体感できる機会がどんどん増えていくでしょう。さあ、皆さん「なぞの旅人フー」に会いに行きましょう。

「かたむろびんたのどろもんか。」

大和田夕美 (ロジスティクス2005)



先日の事ですが、会社の帰りに電車に乗ったときのことです。

座席に座って膝の上にかばんを置いていました。二人掛けの向かい合って座る席で、隣には50歳ぐらいの男性が座っていて、前の席に20歳〜30歳の男性が二人座っていました。金山駅という、JR・地下鉄・名鉄の総合駅があり、とても人の乗り降りが多い駅に着いた時です。前の席の窓際で寝ていた男性が、駅についた時、パッと起きて慌てて降りようとしていました。その男性は、席をたたく通路側に出ようとした時、私のかばんを持ち上げようとしたのです。私は、「この人寝ぼけてるのかな」と思い、自分のかばんを引っ張り返しました。そうすると、その人はもう一度私のかばんを引っ張りました。…私も、もう一度自分のかばんを力強くギュッと、引っ張り直しました。その人は何もなかったように、慌てて電車を降りて行きました。隣の男性が今の何だったの？と声をかけてきました。「瞬の出来事で、私は声を出すことも出さずに呆然としてしまいました。」

ひっそりとしたのでしようか？それともただ寝ぼけていただけなのでしようか？どちらにしても、ちょっと怖い出来事でした。それ以来、電車に乗るときは気を付けるようにしています。

ひっそり被害が気になったので調べてみた所、愛知県内では1日に約8人以上の方がひっそり被害にあっているそうです。他にも、自動車の盗難は1日約24台、車上ねらいは約87件以上発生しているそうです。又、空き巣等も1日38件以上の住宅が被害にあっているそうです。

他人事ではないと思いましたが、自分の身のまわりをもう一度確認しようと思えました。